

令和6年度 学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立桜中学校
実施日	令和7年2月21日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入してください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	○定期的に校長から学校の運営について教職員へ周知し、組織的・計画的に推進できるように生徒指導部や教育相談部で生徒の情報などをその都度共有して共通理解を図ることが出来た。 ○組織的な対応には所々で弱さが見受けられるが、多くの職員が「良い学校にしよう」と務めた。	B	○学校だよりやホームページで教育活動等内容がよく示されている。 ○校長・教職員の連携が統一されており、保護者への説明も十分に果たしている。 ○先生方がいつも生徒たちと素晴らしい指導をしているので、学校の雰囲気明るく、とてもよい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	○年度当初に教員研修を実施、何かトラブルなどが起きた際には組織的に対応できた。 ○校内研修や災害マニュアルを使って適切に対応、災害も実際には起こっていないが、計画は綿密に立案できている。 ○何かトラブルが起きた際の対応や情報共有が早く、対応後の注意喚起も的確であると感じている。	A	○校内研修や災害マニュアルによる組織対応を評価。 ○SNS上のトラブルによる学校の被害に対する危機管理体制の構築・対応の策定が必要。(さまざまな状況の想定) ○自然災害対応のための避難訓練の実施や研修が行われている。 ○「すぐー」等で連絡を共有して対応できている。 ○自転車教習など災害、事故トラブルについて対応できている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	○ノ残業デーや定時退勤ウィークを設定することにより、教員一人ひとりの意識の向上を図ることができ、時間外労働の見直しを行った。 ○行事はコロナウイルス感染症拡大前に戻そうとする部分はよいが、見直しなどをしっかりと行い、スクラップできるところはしっかりと見直しをしなければならない。 ○働き方改革という言葉だけが先行して、教員のための基礎的な環境整備が不十分なものもあるため、形骸化されているところについては、次年度の課題としていきたい。(ノ残業デーの実施、計画年休の導入等)	B	○ノ残業デーの設定及び会議、行動等の精選や業務内容直しによる残業削減を評価。 ○ノ残業デーの実施や定時退勤ウィークなど働き方改革への取組みが行われている。 ○定時退勤の取組みが始められたようですが、このような取組をどんどん進めていただきたい。 ○働き方改革が世に浸透した現在でも学校の先生方の負担は大きく、生徒や学校のために尽力いただけていく分、なかなか改革という点には至っていないことと思われる。 ○教員は一般の公務員とは違ふ。特に中学は受験があるので子供たちのことを考えると、やはり、働き方改革を導入するのは難しいです。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	B	○多くの授業の中で「主体的・対話的で深い学び」を意識した展開がなされた。 ○研修会では授業に参加する生徒全体を見て授業の様子について意見交換がなされた。それぞれの生徒の特色も踏まえて、どのような工夫をすれば、深い学びになるの考えの機会となった。 ○外部の先生による、主体的・対話的で深い学びについての研修も行われ、自分の授業を見つめ直す機会が設けられている。 ○生徒が主体的に学習に取り組めるよう準備をしている教員が多いが、思うように学力向上につながらない。特に下位層の生徒は伸び悩んでいるため今後の課題としていきたい。	A	○ペアやグループ学習取入れ及び学力学習状況調査の分析による授業改善を評価。 ○ICT教育による授業のわかりやすさと学力向上を図っている。その反面身近にありすぎたICTによる子どもたちの思考力(自分で考え見つける)低下も懸念。 ○教職員は、授業の充実を図ると、研修研鑽を積み重ねている。 ○生徒の自主性も尊重して高めあおうと思っています。教員の研修も素晴らしいと感じました。 ○生徒が楽しそうにのびのびとした環境の中、授業に望んでいる姿を見ることができた。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	○道徳に関しては、計画的に実践できていると思われる。豊かな心の育成は道徳のみならず、学年ごとの行事、全校生徒の行事の両者でも大きく関係して生徒を育成している。 ○道徳の授業は毎時間同じ教員ではなく、交代して実施していくことで様々な角度から、物事を考える機会ができたように思う。将来を見据えて、今後の学校生活を送るきっかけにできているのではないかと感じた。	A	○豊かな心を育む授業の実践、命の大切さ、いじめ防止の授業展開を評価。 ○道徳授業の充実、朝鑑賞等豊かな心を育む取組みが充実している。 ○生徒たちの顔や生活態度を見てわかるように信頼関係が構築されている。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	B	○生徒のあいさつについてはいろいろな意見があるが、後半に向かって少しずつ改善され、学年生徒への指導、生徒会・委員会の動きもあり、よくなってきている。 ○生徒たちは気さくで良い雰囲気の子が多い。あいさつなど教員からすると返してはくれるもの、どちらかというと受け身な生徒が多い。 ○言葉遣いや提出物は本校の課題である。	B	○進んでのあいさつ、丁寧な言葉遣い、けじめある、意欲的な授業態度を評価。 ○挨拶はできているが、大人からの声がけではなく、子どもからの自発的な挨拶ができるように。 ○挨拶や丁寧な言葉遣いは概ねできているようだが提出物がでなかつたり宿題を忘れたりする生徒がいるのは残念だ。 ○教員自らの礼儀、礼節を見ることが生徒たちも同様に場をわかまえている。 ○朝、校中の生徒はきちんとあいさつしてくれず。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	B	○定期的に校内研修等で不祥事根絶のための研修を行っている。毎回引き締めるきっかけになっている。 ○学年、学校内で共通理解が図られ、迅速な対応ができている。 ○倫理確立委員会でしっかりと伝達され、教員も意識が高い。学年内で情報共有がよくとられ、学年外でも相談できる雰囲気が見られる。	A	○定期的な倫理確立委員会の開催及び不祥事防止チェックリストの活用を評価。 ○不祥事防止のための研修や倫理確立委員会など定期的な実施されている。 ○校長、教頭、教員の関係性も良いと感じる。研修・会議なども実施している。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。(市共通項目)	B	○通常級・特別支援学級・通級指導教室で連携をとることができるのが本校の強み。相談室の先生も生徒一人ひとりと向き合い、情報共有ができている。 ○生徒へ細かく対応し、相談室・保健室等とも連携して家庭にも積極的に関わっている。	B	○生徒に対しての温かい態度で授業を展開している。 ○不登校生徒への支援検討を評価。 ○先生方は生徒一人ひとりに対して誠意をもって対応しているようである。 ○教員全員での共有事項として、家庭との相談・連携を評価。 ○先生と生徒が話している所を見かけたが、先生方の温かい思いやりのある接し方を見て、とても良い雰囲気が伝わった。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。(市共通項目)	B	○職員会議の際に特別支援教育についての情報を共有したり、定期的に特別支援通信が出ることで職員が特別支援教育についての理解を深めることが出来た。 ○コーディネーターを中心に、特別支援教育の充実が一層図られている。 ○特別支援教育については更に研修を進め、生徒の成長に繋がれるよう、教職員全体で研鑽を積んでいきたいと考える。	A	○特別支援教育については、特に職員の資質が高いと思います。障害を持った子どもの保護者の評判が良い。 ○校中の特別支援学級に入学させたいと希望している保護者が多い現状です。また、子供たちも明るく楽しそうに授業を受けていることで理解できます。 ○就学支援委員会の定期的な開催と特別支援教育職員研修を評価。 ○特別支援教育に関する研修等実施され理解も深まっている。 ○生徒にとって良いこと、できること、ありがたいができないことでもあります。寄り添った支援の充実を図っている。 ○生徒が増えなくても支援学級の教室は和やかで、とてもよい環境の中、授業が進んでいた。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	○定期的な安全点検を実施し、その対応についても示されている。 ○清掃用具が整備され、清掃区分も明確になっている。 ○バケツを使う習慣を身につけさせたい。水道が汚くなることを防ぐため、次年度の取組としていく。	A	○校内環境は安心安全に努めていると思われる。 ○定期的な安全点検が実施され、修理が必要な時は迅速に対応がなされている。 ○生徒が安全に生活できるように配慮している。きれいに美化されていて気落ちが良い。 ○平日頃学校内にはきれいにしており、学校生活をよりよいものにするため、配慮いただいている。 ○学校予算が十分組まれているか？
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	B	○すぐーの導入により、学校での活動報告や連絡のハードルが下がった。また、学校の教育活動に関する情報を家庭に配信できている。 ○情報提供の手段がすぐーにより一つ増え、学校からの通知をすぐーに変えたことで確実に家庭への連絡ができるようになった。	B	○地域の祭りに生徒が参加していて、美術部は幼児や小学生に教えてくれたり、吹奏楽は演奏したりと交流を図っている事は、生徒たちにとってもコミュニケーション作りを学べる機会になっている。 ○HPを開発したり学校だよりを回覧したりしてよく情報提供を行っている。 ○近隣の小学校と比べると、ホームページの更新が遅い。 ○学校応援団だけでなく、もっと地域の人と交流できるものを行事の中に取り組みでも良いのでは？
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	○家庭と密に連絡を取り、本人の困り感を解消しているように対応してきた。各学年の総合の時間では、地域や社会とのつながりが持てる内容が実施された。 ○地域とのつながりが薄いと感じる。もっと地域の人とつながる行事、開かれる行事も必要かと思われるので、今後の課題としていきたい。	B	○様々な業種や地域の方や保護者・教員と良好な関係である。 ○特別支援のお手伝いをした際、生徒たちと一緒に過ごした時間はとても楽しく、こちらが元気なだけで、素敵ない出にりました。 ○近隣の高校や大学との交流を図ることで生徒たちの進路の一助になるのでは？ ○所得格差からくる学力差改善のために学校応援団など地域の協力をいただき放課後を活用するのはどうか？ ○地域人材の活用が職員の中で、共通理解されていないようである。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	○小中教員の交流だけでなく、研修会等の情報も共有されている。 ○連携を進めるために、生活のきまりや学習の進め方について小中で協議し、桜中学校区としての取組を次年度以降で決まっています。	B	○小中の連携は重要だと思います。特に子供の心身・家庭状況に関する情報の連携は大事だと思います。 ○定期的な情報交換の実践と体験授業、合同研修、部活動による相互取組を評価。 ○同じ坂戸市の一地域の大切な子供たちとして教育活動を行っている。 ○今後はもっともっと地域の方々やボランティア(学校応援団)等を使っていただき、先生方のご負担がほんの少しでも軽減できますよう、お声がけいただけたらと願っております。